



目次

第一章 古代9

第一節 “ポエの地 (bod・蕃)” の由来9

第二節 チベット高原の形成10

第三節 チベット族の起源11

サルと羅刹女の末裔、チベット族／古代チベット人の氏族形成／チベット族の起源と関連出土文物

第二章 プギエル氏の世系15

第三章 ツェンポの王統18

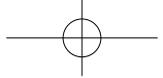
第一節 ツェンポ、ソンツェン・ガムポ18

チベット統一／吐蕃社会の管理体制と法律の制定／現代使用されるチベット文字の創作／王妃の迎え入れ／ラサのトウルナン寺などの仏殿の建設／疆域の開拓と吐蕃経済の発展／唐とチベットとの間の友好関係の樹立

第二節 グンソン・グンツェンとマンソン・マンツェン43

第三節 ドウーソン・マンボジェ・ツェンポ44

第四節 ティソン・デツェン・ツェンポ46



第五節 ティソン・デツェン・ツェンポ ……………48

ティソン・デツェンの主な政治功績／シャーンタラクシタ、
パドマサンバヴァが仏教を広める／サムイエ寺の建設／七覚
士が僧になるため出家する／頓門派と漸門派の論争／ユイ
トウ・ユンタンゴンポ

第六節 ムネ・ツェンポ王子 ……………59

第七節 ティデ・ソンツェン・セナレク ……………60

第八節 ティツク・デツェン・ツェンポ ……………63

第九節 ランダルマ・ウイドウムツェン・ツェンポ…………65

第四章 チベットの分裂時期 ……………67

第一節 オェスン、ユムテン及びその末裔たちの事跡…67

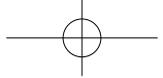
オェスンとユムテンの生まれた時代／オェスンとウル・ヨル
間の戦乱／庶民の蜂起／民衆蜂起がチベット社会にもたらし
た功罪

第二節 チベット仏教後期発展史 ……………73

マル、ヨ、ツァン3人のカムへの逃亡とラチェンの略伝／低
地律の広がり／高地律の広がり／仏教発展後期のパンディタ
／仏教発展後期の訳師

第三節 チベット分裂時期の教派 ……………79

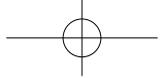
カダム派／カギユ派／サキャ派



第五章 サキヤ王朝（サキヤ派）のチベット

統治期86

- 第一節 13世紀初頭のチベットの形勢とサキヤ王朝の家系86
- 第二節 モンゴルのチンギス・カアンの末裔勢力のチベット侵入とチベット再統一93
- 第三節 モンゴル王子エチンコデンがサキヤ・パンディタを招き内地へ行く96
- 第四節 サキヤ・パンディタがチベット各地の首領に手紙を送る98
- 第五節 パクパとモンゴルのクビライの会見
僧侶を讃え保護する詔書104
- 第六節 セチェン・カアン・クビライがカルマ・パクシを中国へ招く108
- 第七節 吐蕃の3つのチオルカが元朝の統治に入り
チベットに宿場を設立することを公布する.....111
- 第八節 珍珠詔書の贈り物とチベットに戻ったパクパのサキヤでの新しい機関の設置116
- 第九節 元朝皇帝の政治顧問としてのパクパ121
- 第十節 パクパの再度のチベット帰還と逝去、及び元のチベット進駐122
- 第十一節 チャクナ・ドルジェ父子125



第十二節 サキヤとディグン派の対立の激化 ディグン
寺廟の乱 ……………127

第十三節 サキヤタンイ・チェンポ・サンポ・ペルの
業績 ……………130

第十四節 元朝のチベットでの徹底的な3回の戸籍調査
によるチベットの行政制度の確定 ……………132

第十五節 元朝はサキヤ統治集団に官位を与え
印を賜る ……………139

第十六節 サキヤパが元朝皇帝の命を受けてチベット事
務を管理した若干の実例 ……………143

第十七節 サキヤ派統治時期のチベット経済の発展……148

第十八節 サキヤ派統治時期のチベット文化事業の発展
……………153

第十九節 チベット族文学史上に新しい時代を切り開い
たシヨン訳師ドルジェ・ギェルツェン ……155

第二十節 サキヤ家族が4つのラダんに分裂 サキヤパ
統治の終了 ……………157

第六章 **パクモドゥパ統治時代のチベット**……161

第一節 ラン氏一族とパクモドゥ・カギユ、パクモドゥ
万戸とパクモドゥ・デシ ……………161

ラン氏一族とパクモドゥ・カギユ／パクドゥ万戸／パクドゥ・
デシ（パクドゥ政権）



第二節 明朝のチベット地方政権への管理 ……………195

明朝の確立とチベット地方への事務の管理／明朝のチベット高僧に対する褒美

第三節 パクモドゥ統治期のチベットの経済と文化の発展 ……………202

パクモドゥ統治期の経済発展／パクモドゥ統治期の文化と構築事業の発展

第四節 パクモドゥパ政権期のゲルク派 ……………213

ツォンカパ大師ロプサン・タクパの生涯／ガンデン寺の歴史について／ギェルツァブジェ・ダルマ・リンチェンの事跡／ケジュ・ジェ・ゲレク・パルザンの事跡／ジャムヤン・チョジェの事跡とデブン寺の建立／大慈法王シャキヤ・イエシエの事跡／ダライ・ラマ1世・ゲンドウン・ドゥプの事跡／タシルンポ寺の歴史／ダライ・ラマ2世・ゲンドウン・ギャムツォの事跡／ダライ・ラマ3世・ソナム・ギャムツォの事跡／ダライ・ラマ4世・ユンテン・ギャムツォの事跡

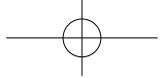
第五節 デパ・リンプンパの歴史 ……………240

第六節 デシ・ツァンパの歴史 ……………245

第七章 **ガンデン・ポタン政権の統治期**……………252

第一節 **ダライ・ラマ5世・ガワン・ロプサン・ギャムツォの事跡** ……………252

ダライ・ラマ5世がチベットの地方政権の掌握を認められる／清朝皇帝に謁見し、金冊などの封賞を授かる／ダライ・ラマ5世が行った政策や処置／ガリ三囲を統治下に加える、ダ



ライ・ラマ 5 世が入滅する／グーシ・ハーン父子と歴代のデシ／デシ・サンギェ・ギャムツォ

第二節 ダライ・ラマ 6 世・ツァンヤン・ギャムツォの足跡270

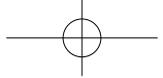
ダライ・ラマ 5 世の転世認定と坐床式／ラサン・ハーン、デシを殺してチベットを掌握／ラサン・ハーン支配下でのダライ・ラマ 6 世の最後／ジュンガルモンゴル軍によるチベット奇襲

第三節 ダライ・ラマ 7 世・ケルサン・ギャムツォの時代276

認定とチベット入り／ジュンガルの勢力をチベットから駆逐する／ダライ・ラマ 7 世の坐床と、チベット地方政府の首領の任命／カロンの内輪もめとウ・ツァン騒乱／皇帝が使者を派遣して、チベットの問題で処分を下す／ダライ・ラマ 7 世のカムへの移住／ポラネーをチベット業務の総理に封じる／ブータンの内乱を鎮める／駐蔵の清兵が削減され、ダライ・ラマ 7 世がチベットに帰る／ダライ・ラマとポラネーの間の不協和と、ポラネーの死／救命によりギュメイ・ナムギェルを郡王位に封じ、チベット政務を統括させる／ギュメイ・ナムギェルが謀反を起こすが、駐蔵大臣の計略で殺される／ダライ・ラマが勅旨により親政をはじめ、カシャ機構を設置する／欽定蔵内善後章程 13 条／イツァンと、僧官学校の設立／ダライ・ラマ入滅し、デモ・ホトクトが摂政となる

第四節 ダライ・ラマ 8 世・ジャムペル・ギャムツォの時代299

靈童を探し、即位させる／デモ・フトクトの入滅とツェモンリンの摂政継続／パンチェン・パルデン・イエーシェーが北



京に入り、三岩の乱を平定する／ダライ・ラマ 8 世が政治を行い、摂政墨林化身ラマは北京に戻る／グルカ軍による第 1 次チベット侵攻／チベットとグルカがキロンで和議を結ぶ／タクサク化身ラマが摂政を代行する／グルカが条約を破棄して 2 度目のチベット侵攻を起こす／福康安が命令を受けて大軍を率いグルカを撃退する／漢チベット両軍が共同で戦い、グルカがおとなしく投降する／福康安の勝利の帰還／清朝政府が制定した『欽定蔵内善後章程』29 条／『欽定蔵内善後章程』29 条実施範例／クンデリン（功德林）寺と関羽廟を建立し、乾隆帝の肖像をポタラ宮に納める／ダライ・ラマ 8 世の入滅とタクサクの代理摂政への任命

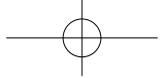
第五節 ダライ・ラマ 9 世・ルントク・ギャムツォ……316
 搜索と坐床／デモ・フトクトによる代理摂政、ダライラマ入滅

第六節 ダライ・ラマ 10 世・ツルティム・ギャムツォ
 時期 ……………318

転生靈童の認定とデモとツェモンリンの摂政の継続／『鉄虎清冊』の編纂、波密の侵攻、ダライ・ラマ 10 世入滅

第七節 ダライ・ラマ 11 世・ケードゥプ・ギャムツォ
 の時期 ……………320

転生靈童の認定、ガリ森巴戦争／摂政ツェモンリンが免職され、7 世パンチェンとラデン化身ラマが相次いで摂政する／ダライ・ラマ 11 世の親政と円寂。グルカがチベットに侵入し戦争を起こす



第八節 ダライ・ラマ 12 世・ティンレ・ギャムツォの
時期 ……………331

12 世探し。認定と坐床／地方政府の権力者が内紛を起こし、
摂政ラデン化身ラマが中国本土に逃げシェダ・ワンチュク・
ギェルポが権力を掌握した／瞻対に兵を用い、デシ・シェダ
が亡くなり、徳珠が摂政となる／ペルデン・トンドゥブの乱。
摂政徳柱の逝去。ダライ・ラマ 12 世が政務を掌管してしば
らくして円寂する／タクサクが摂政に任命され、イギリス人
のチベットでの調査に反対

第九節 ダライ・ラマ 13 世・トゥプテン・ギャムツォ
の時代 ……………345

トゥプテン・ギャムツォの後輪と認定、坐床の状況／イギリ
ス帝国主義へのはじめての抗戦／ダライ・ラマ 13 世が政権
を握る。チベット統治階級内部の権力争い／帝政ロシアの魔
の手がチベットに伸びる／チベット各民族の人民がイギリス
侵略軍に抵抗した 2 度目の戦争／張蔭棠がチベットについて
調べる／ダライ・ラマが外モンゴルに逃亡し、北京で慈禧太
后と光緒皇帝に謁見する／ダライ・ラマ 13 世がインドに逃
げる／シムラ会議について／チベット地方の若干の新政措置
／ダライ・ラマ 13 世の円寂。チベット統治階級の内部の権
力闘争／ダライ・ラマ 13 世の転生の認定。ダライ・ラマ 14
世の坐床／ラデン化身ラマと達札化身ラマが続けて摂政を担
当する。熱達の争い／チベット人民が新たな人生を得る

第十節 ガンデン・ポタン時期の一部の知識人の概要…396

チベット医学暦算大師欽繞羅布／近代の著名な学者ゲンドウ
ン・チョペル